

第3回東アジア 島嶼海洋文化フォーラム

日程：2015年11月11日～11月15日

参加者：田上 繁 昆 政明 小熊 誠 安室 知 窪田涼子

出張地：韓国・木浦大学校島嶼文化研究院

フォーラム参加者：上海海洋大学5名・浙江海洋大学5名・台湾海洋大学3名・
鹿児島大学5名・神奈川大学5名・木浦大学校から10名以上

韓国木浦大学校での島嶼海洋文化フォーラムに参加して

小熊 誠

東アジア島嶼海洋文化フォーラムは、中国・台湾・韓国・日本の海洋文化を研究している研究組織が集まって開始された。中国海洋大学、上海海洋大学、台湾海洋大学・木浦大学校島嶼文化研究院・鹿児島大学国際島嶼教育センターなどの間で研究上の交流があったものの、個別の交流にとどまっていたので、その交流を総合的に展開する目的で標記のフォーラムが開催されることになった。



写真1 Blue-spotted mud hopper Bridge

日本常民文化研究所も、海洋文化研究は伝統的な研究課題となっており、国際常民文化研究機構が文科省に採択された2009年から上記の中国、韓国の大学とは個別に学术交流協定を結んできた。このフォーラムにも、第1回の鹿児島大学国際島嶼教育センター主催のフォーラムから参加する予定であったが、諸般の事情で木浦大学校主催の第3回から参加することとなった。初回の参加なので、田上所長を中心に総勢5名が参加した。

● 2015年11月12日 研究報告会

午前9時から午後6時30分まで

発表者25名（発表12分、質疑応答3分）

基本的に、発表は英語か自国語。発表要旨とPPTは英語。

日本常民文化研究所からの発表者：

昆政明 Traditional Wooden Boats in East Asia

安室知 Fishing Ground Recognition of a Sea-



写真2 珍島アリラン村

side Village in Japan - Traditional Positioning Technique “YAMAATE”

● 11月13日 エクスカーション1

国立海洋文化財研究所・木浦郷土文化館・曾島塩博物館・太平塩田・花島の露頭・Blue-spotted mud hopper Bridge・新安海底遺跡物発掘記念碑

● 11月14日 エクスカーション2

珍島大橋（鳴梁海戦）・龍蔵山城・雲林山房・珍島歴史館・珍島郡立民俗芸術団・南桃鎮城・珍島アリラン体験館

●感想

2017年度は、日本常民文化研究所主催で開催する予定なので、その視点での感想を盛り込んだ。

- ・至れり尽くせりのフォーラムとエクスカーションであった。
- ・フォーラムの発表時間が短すぎた。1日半にして、ゆったりとした発表会を検討する必要があるのではないか。
- ・質疑応答は英語を基本としていたが、英語を解さない参加者も多くいた。神奈川大学では、中国語と韓国語の参加者を通じた質疑応答が必要かと思われる。
- ・国立海洋文化財研究所は、大変興味深い研究所であり、今後の交流を考えたい。
- ・海洋研究をする東アジアの研究者の集まりであり、交流が盛り上がった。今後は、実質的な研究分野での更に密度の濃い交流が求められる。
- ・フォーラムにも担当校の特色をもっと出してもよいのではないか。
- ・昼食・夕食、エクスカーションはすべて担当校負担であり、予算・内容を含めた再来年の計画は、機構・常民以外の学内他部署を巻き込み、早めにたてる必要がある。